

校長室だより

第3号

柏原市立堅下北中学校
校長 石田 智
令和4年6月3日（金）発行

○3年生修学旅行

5月15日（日）～17日（火）にかけて、3年生は長崎方面に修学旅行に行きました。天候にも恵まれ、参加者全員が元気に3日間の行程を終えることができました。

今回の修学旅行はそれまで行ってきた平和学習の集大成でもありました。被爆の語り部である羽田麗子先生（元中学校の先生です）からの体験談の聞き取りは、到着直後の疲れが見える時間帯でしたが、全員が姿勢を正し、張りつめたような緊張感の中、驚くほど真剣な姿勢で臨むことができ、先生からもお褒めの言葉をいただきました。後の感想文からも、先生からのメッセージをきちんと受け止められていることが感じられ、大変嬉しく思います。

その夜に行われた学級アピールやレクリエーション大会では、一転してみんなが明るく生き生きとしたパフォーマンスを見せてくれ、クラスの団結力と学年全体のパワーを肌で感じることができました。

2日目のフィールドワークとハウステンボスでの班活動においても、事前に決められたルールや時間を守り、非常に節度ある中学生らしい行動ができたように思います。

2学期には北中伝統のソーランがあります。修学旅行を通じて深まった学年の絆を発揮して素晴らしい発表にしてもらいたいと思います。



○1年生宿泊学習

3年生の修学旅行から2週間後の5月29日（日）と30日（月）、1年生は兵庫県の神鍋高原に宿泊学習に行きました。新型コロナウイルスの影響により過去2年間実施できませんでしたので、今回

は3年ぶりの宿泊学習となりました。3年生と同様天候にも恵まれ、大変充実した2日間を過ごしました。

特に印象的でしたのは、フィールドワークの際に、しんどくなった班の仲間のカバンを持ってあげたり、そのしんどくなった仲間に飲み物を真っ先に渡してあげるといった「さりげない優しさ」が感じられる場面がたくさんあったことでした。以前集会でもお話しましたが、人にしてもらって嬉しかったことを別の機会に自らが人にもしてあげられる、きっとそんな温かい心の持ち主がたくさんいてくれるのだと思いました。

また、1年生は別の小学校からの集まりですが、2日間寝食を共にすることにより一気に仲が深まったように感じました。閉村式の際に「宿泊学習を通じて、『今まであまり話さなかった人と話すようになった』または『今まで以上に友だちと仲良くなった』という人は手を挙げて」と言うと、（数えてはいませんが）全員が元気よく挙手してくれました。大きな成果を得た宿泊学習だったように思います。



○給食について

みなさんは「おいしい給食」というドラマをご存じでしょうか。市原隼人さんが扮する給食に異常な執着心を抱く教師と給食が大好きな生徒が、「どちらがおいしく給食を食べるか」というテーマで給食バトルを繰り広げるという物語です。基本的には喜劇で、バカバカしい競い方もするのですが、その根底に流れる食材や給食に対する愛情と調理する方々への敬意の念が感じられ、そこがこの作品の良さだと思います。私たちが毎日食する給食も、藤井寺市柏原市給食センターの調理師さんが朝早くから調理をし、配送員さんがお昼前には学校に搬入して、そして配膳員の野口さんと馬場口さんが、不足分がないかを入念に確認しながら各クラスの係が教室で配膳できるよう分けてくださいます。そうやってようやく私たちは給食を食べることができるわけです。他の市町村から来られた先生方や生徒から「柏原の給食はおいしい」という話をよく耳にします。栄養面だけでなく、みなさんが喜んで食べられるよう日々研究してくださっているからだだと思います。もし機会があればドラマも見ていただき、毎日の給食に関心を持ち、関係する方々へ感謝するきっかけとしていただければ幸いです。